

上宮寺通信

第五十六号

念仏の教えを後世に

京都の東本願寺において3月25日から4月29日まで「宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年 慶讃法要」が勤められます。

親鸞聖人がお生まれになられた年は一一七三年。ですから今年には御誕生八百五十年の年にあたります。では、立教開宗八百年とはなんででしょうか？

立教開宗とは、いわば浄土真宗の誕生ということ。その誕生の根拠とされるのが親鸞聖人の著した『教行信証』。この書物は浄土真宗の要といふべきもので、親鸞聖人は最晩年まで何度も書き直されていますが、い

ちおうの完成をみたのが一二年、52歳の時といわれています。

教団ではこの年を立教開宗の年と定め、正式には来年が八百年となるのですが御誕生八百五十年と合わせて慶讃法要としたのです。

『教行信証』は正式には『顕浄土真実教行証文類』といいますが、「教」「行」「信」「証」「真仏土」「化身土」の全6巻から成り、念仏の教えこそが真実の教えであり、お釈迦様が本当に説かれたかった教えであるということが著されています。

その内容は単に親鸞聖人が自身の了解を書かれたというものではありません。書名に「文類」とあるようにインド・中国・日

本の高僧たちの書かれたものを集め、時代や場所を超えて念仏の教えが正統な仏教として伝わってきたということを明らかにしているのです。

そして「後序」といわれる最後の部分には、親鸞聖人ご自身が念仏の教えに出遇えたことを喜び、仏様のご恩に深く感謝を表すとともに源信僧都の『安樂集』の言葉を引用しています。それは「前に生まれん者は後を導き、後に生まれん者は前を訪え」という言葉です。

念仏を喜ぶ者は、次の世代に伝えていく役目がある。そして、自分よがりの考えに陥らぬように先達の言葉を確かめていかなければならない。この言葉からも、『教行信証』が念仏の歴史を

問い尋ねていくものであり、念仏を後世の人に伝えていくためのものだということがわかります。

その『教行信証』に込められた願いのもと、今回の慶讃法要は勤められています。



『教行信証』(坂東本・復刻版)

『教行信証』こぼれ話

親鸞聖人が著した『教行信証』ですが、唯一現存する自筆のものは真宗大谷派所蔵の「坂東本」といわれるものです。1952(昭和27)年に国宝に指定されました。

「坂東本」といわれる由来は、親鸞聖人の高弟・性信によって坂東報恩寺(茨城県)に伝えられ、所蔵されてきたことによります。その後、東京の浅草本願寺(当時)が保管をしていたのですが関東大震災で寺が焼失。金庫にあった『教行信証』は何とか被災を免れたそうです。それ以後、京都東本願寺に移り、国宝に指定された現在は京都国立博物館へ寄託されています。

博物館では5月21日まで「親鸞―生涯と名宝―」展が開催され実際に見る事ができるそうです。

◆ご案内

親鸞聖人御誕生八百五十年特別展

「親鸞―生涯と名宝―」

3月25日(土)～5月21日(日)

会場：京都国立博物館

開館時間：9時～17時30分

(入場は閉館の30分前まで)

観覧料：一般1800円

大学生1200円

高校生 700円

※月曜日休館

慶讃法要

宗祖親鸞聖人
御誕生八百五十年・
立教開宗八百年

(第一期)3月25日～4月8日

(第二期)4月15日～4月29日

京都・東本願寺

◆話題あれこれ

○3月8日は暖かな春の陽気にも恵まれ、お彼岸・永代経法要を無事におつとめすることができました。たくさんの方にお参りをいただきありがとうございました。

○京都の東本願寺で勤められています慶讃法要ですが、インターネットでライブ配信がされています。「YouTube 真宗大谷派公式」で検索してください。

4月8日は境内で舞楽が行われますので、もしかしたら映っているかもしれません。舞楽の間は午後3時ぐらいになると思えます(法要は1時半開始)。

○はやいもので今月末はゴールデンウィークです。近頃は急激に季節が変わりますので体調には十分お気をつけください。

【雑感】

娘がこの春、高校を卒業しました。入学直後に緊急事態宣言が出て休校。しばらく学校に通えず自宅学習が続きました。二年生の修学旅行は中止。文化祭等の行事も規模を縮小して行うなど、新型コロナウイルスに振り回された三年間でした。親からするとかわいそうな高校生活だったなと思ってしまうのですが、当の本人たちはそうでもないようです。歳を取ってくると現状にあれこれ不満を言いがちですが、今の状況を精一杯楽しむ。それが「若い」という証拠なのではないか。

(住職記)

【発行】

真宗大谷派

上宮寺

昭和三十九年一丁目十九番十五号

☎052-871-0547